

第1回溝口駅周辺地域帰宅困難者対策協議会
第1回エリア防災計画作成部会 合同会議
会議録

■開催日時・場所・出席者

日 時：平成29年8月7日（月）15時～16時30分

場 所：高津区役所5階 第1会議室

出席者：溝口駅周辺地域帰宅困難者対策協議会委員（別紙名簿参照）

エリア防災計画作成部会委員（別紙名簿参照）

秋山担当課長、小島担当係長（以上、高津区役所危機管理担当）

■会議次第

- 1 開 会
- 2 国土交通省、副市長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 議 題
 - (1) 溝口駅周辺地域帰宅困難者対策協議会規約等について
 - (2) 溝口駅周辺地域エリア防災計画の策定について
 - ①計画の概要について
 - ②溝口駅周辺地域の現状と課題について
 - ③計画策定の進め方について
- 5 その他
- 6 閉 会

■配付資料

資料番号	資料名
—	次第
—	名簿
—	座席表
資料1	溝口駅周辺地域帰宅困難者対策協議会規約・エリア防災計画作成部会会則（案）
資料2	溝口駅周辺地域エリア防災計画の策定について
資料3	地震被害想定
資料4	溝口駅周辺地域の特徴
資料5	これまでの取組
資料6	溝口駅周辺地域の課題
資料7	計画策定の進め方
資料8	平成28年度「溝口駅周辺地域エリア防災計画」基礎調査報告書

■会議要旨

1 開会

2 国土交通省、副市長挨拶

《国土交通省関東地方整備局建政部都市整備課課長補佐 横田委員》

エリア防災計画は東日本大震災を契機としたものであり、今回、この計画を作成していただけるということで感謝申し上げたい。

溝口駅においては1日の乗降客数が30万人以上であり、そうした利用者に対して災害時に安全に避難等していただくことを目的に計画を策定するわけであるが、南海トラフ地震など非常に高い発生確率が示される中、有効に活用できて具体的、実質的な計画になるように、この場で議論していければと考えている。

《川崎市副市長 伊藤委員》

溝口駅周辺は主要な交通結節点として発展してきており、人口が増加するとともに通勤、通学や買物等で駅周辺を利用する方も増加している。この溝口駅周辺が、今後魅力ある町として継続していくためには、拠点整備や都市環境の形成とともに、都市の安全性や信頼性を高めていくことが大変重要であると認識しているところである。

こうした認識の下で、今後起こり得る首都圏の大規模な災害時には、溝口駅周辺でも大きな混乱の発生が懸念されている。さまざまな都市機能が集中する溝口駅周辺の被害を最小限に留めるためには、行政機関をはじめとする関係者の参画による総合的な対応が不可欠である。

このたび関係者が主体的に関わる溝口駅周辺地域エリア防災計画を策定するにあたり、本当に限られた期間ではあるが、忌憚のないご意見とご指導、ご協力をお願いしたい。

3 委員紹介

○事務局秋山担当課長より委員を紹介

4 議 題

(1) 溝口駅周辺地域帰宅困難者対策協議会規約等について【資料1】

○事務局から、資料1「溝口駅周辺地域帰宅困難者対策協議会規約・エリア防災計画作成部会会則（案）」について説明し、承認された。

○帰宅困難者対策協議会の会長選出では伊藤委員が会長として承認された。

○エリア防災計画作成部会の部会長選出では多田委員が部会長として承認された。

《質疑応答》

丸 委員： 溝口駅周辺地域帰宅困難者対策協議会規約（案）の別表第1、東日本旅客鉄道株式会社横浜支社の役職について、サービス品質改革室副課長からサービス品質改革室室長に訂正をお願いしたい。

事務局： ご指摘のとおり修正する。

横田委員： 部会で作成された実質的な計画を承認するのが協議会ということであるが、協議会に入っていない消防や地域の商店会等に承認いただくプロセスはどのようになるか。

事務局： 東日本大震災以降、高津区においては今回の帰宅困難者対策協議会およびエリア防災計画作成部会に先立ち、防災ネットワーク会議を毎年開催し、さまざまな団体と協議している。ここで議論いただいた内容については、防災ネットワーク会議にフィードバックしていく。さらにこの計画自体、PDCAを繰り返しながらブラッシュアップしていきたいので、防災ネットワーク会議でのご意見等も含めながらさらに改善していきたい。

事務局： ご提案した協議会規約、作成部会会則については、ご指摘いただいた部分を修正のうえ、本日付で決定とさせていただきます。

《伊藤会長 挨拶》

今後、しっかりと議論いただきながら実効性のある計画を作り、計画策定で終わらせることなく、災害に強いまちづくりを求めてまいりたいので、ご協力を願います。

《多田部会長 挨拶》

大規模な地震の発生の際にも互いに連携しながら、効果的な対策、対応が取れるよう、計画策定、内容の検討に向けたご協力、またご指導を賜りたい。

(2) 溝口駅周辺地域エリア防災計画の策定について

○事務局より、以下の説明を行った。

①計画の概要について【資料2】

資料2「溝口駅周辺地域エリア防災計画の策定について」に基づき、溝口駅周辺地域エリア防災計画の策定趣旨や策定体制、計画概要、策定スケジュール、関連する計画、踏まえるべき背景について説明した。

②溝口駅周辺地域の現状と課題について【資料3～6】

資料3「地震被害想定」、資料4「溝口駅周辺地域の特徴」、資料5「これまでの取組」、資料6「溝口駅周辺地域の課題」に基づき、溝口駅周辺地域の現状と課題を説明した。

③計画策定の進め方について【資料7】

資料7「計画策定の進め方」に基づき帰宅困難者対策の目的を再確認し、計画策定にあたって踏まえるべき点や計画検討の流れについて説明した。

《質疑応答》

横田委員： これから計画を策定するにあたりポイントとなるのは、滞留者への情報提供と受入施設への誘導方法である。誘導ルートの検証やデジタルサイネージを活用した情報提供、安全ベストなどの資材関係についてもご検討いただきたい。資材関係については、国土交通省の支援メニューの活用もご検討いただければと思う。

伊藤会長： 貴重なご意見ということで、今後、詳細に検討する。

横田委員： 東日本大震災時の溝口駅周辺の状態を教えてください。

事務局： 危機管理室からの指示で15時15分に災害対策本部を設置し、区職員、来庁者を確認、対応を検討した。帰宅困難者対策については21時30分に対応方針を決定した。当時は一時滞在施設という概念もなかったので、避難所として設定されていた周辺の小学校、スポーツセンターの2箇所を帰宅困難者向けの避難所として開設した。その後、帰宅困難者が増えたため中学校を追加し、最終的には三百数十名が一時避難した。

今回の想定は15時ということで、東日本大震災と時間的には似たような状況であるが、数千人の帰宅困難者が発生したときに、果たしてどのような指示ができるのか悩んでいるところである。やはり行政だけでは対応が難しく、周辺の事業者や団体の方との連携が必要と感じている。

並木委員： ネットワーク会議で実施したアンケートによると、公共施設ではないところでも帰宅困難者の受入れにご協力いただいたと聞いているので、そのあたりを形にしていければと思う。

伊藤会長： 想定が東日本大震災以上ということで、デジタルサイネージを含めて滞留者への情報提供や避難誘導指示をいかに効率的に行うかということが大変重要になる。新たな情報提供手段、あるいは既存の報告媒体を災害時に転用できるような事業者のご協力も一部進められているので、イメージを想定した上で、詳細については部会でご議論いただきたい。

5 その他

○事務局より、今後のスケジュールの再確認として、10月に開催予定の第2回作成部会で計画の骨子を提案、それをベースとして11月に帰宅困難者対策訓練を実施することを説明した。

6 閉会

《川崎市高津区区长 高梨委員》

本日は貴重なお時間にお集まりいただき感謝する。今回説明した内容については、今後十分ご議論いただきたい。

東日本大震災当時は一時滞在施設という概念がなく、駅前滞留者や徒歩帰宅者が避難所となっている学校に多数流れてくるという状況があった。また、市内の一部地域では停電のため避難所と連絡が取れないという状況もあった。

直下型地震となると、停電や断水といった状況が想定される。さらに、東日本大震

災では想定できなかった厳しい条件も考えられるので、今後部会の中でご検討いただく際にはその点も踏まえてご議論いただければと思う。

まずは人命を守ることが一番大切である。また、混乱を防ぐことにより速やかな復旧が図られると思う。それぞれの関係機関の方にはご負担をおかけするが、今後ともよろしくお願ひしたい。

以上